社会福祉法人
九州キリスト教社会福祉事業団

信 望 愛
Since1978

『中津総合ケアセンター いずみの園』として
地域とつながり、地域社会へ貢献する事業

法人本部・特別養護老人ホーム・在宅サービス事業部全景

紹 介 冊 子

2014年10月

「くろかんくん」
（中津市使用承認）

目　　次

○『紹介冊子』の編さんに当たって　・・・・・・・・・・・1
法人基本理念

1.ボランテイア活動の拠点として　・・・・・・・・・・・・2
（1）ジュニアワークキャンプ
（2）出張介護教室
◇コラム1◇　無料介護教室

2.施設機能を活かした活動　・・・・・・・・・・・・・・・3
○リハビリテーション専門職員の市民を
対象としたリハビリ教室指導・助言
◇コラム2◇　アウトデイ

3.地域とのかかわり　・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（1）生き生き健康教室
（2）徘徊模擬訓練
（3）蛎瀬川清掃
（4）防犯パトロール
（5）年末の餅つき（蛎瀬地区）
（6）作品展示・会場貸与

4. 各種行事の地域（合同）開催事業　・・・・・・・・・・・6
（1）「いずみの園フェスタ」
（2）「楽一通り楽市楽座秋祭り」（蛎瀬地区）

5.アウトリーチ機能（主に総合相談機能）　・・・・・・・7
（1）ひとり暮らし・高齢世帯・低所得などの
高齢者へのアウトリーチ機能
（2）障がいのある人等要援護者への
アウトリーチ機能
◇コラム3◇　オレンジカフェ

6.高齢者・障がい児者・子ども・母親・地域住民の
生事業『福祉の里センター　サマリア館』　・・・・・・8
（２０１５年４月開所予定）

7. 行政・教育機関・福祉施設等との協力・連携　・・・・・・・・・9
（1）社会福祉法人減免の実施
（2）県立中津支援学校生実習生の受け入れ
（3）児童養護施設入所者のアルバイト受け入れ
（4）職場体験（インターンシップ）の受け入れ

8.地域防災への取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（1）中津市福祉避難所契約・防災士の養成
（2）蛎瀬地区の総合防災訓練
◇コラム4◇　防災士とは、
◇コラム5◇　サンダーバードとは

9.CSR（Corporate Social Responsibility
：企業の社会貢献）の実績　・・・・・・・・・11
（1）東日本大震災への支援
（2）北部九州災害への人的派遣
（3）「アフリカへ毛布を送る運動」への協力

10. 各種経済団体・地域団体との連携　・・・・・・・・・・・・・12
（1）中津商工会議所との連携
（2）中津商工会議所提唱“地域清掃活動”への参加
（3）中津青年会議所（ＪＣ）主催「中津だよ！全員集合」
への参加
（4）「大分県中小企業家同友会中津支部」への参加
（5）「中津・桜ともみじの会」植樹への参加

◇　資　　料　　編　◇　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
（1）いずみの園の沿革
（2）いずみの園事業一覧
（3）いずみの園組織図・職員数
（4）本冊子作成に当たっての「地域貢献事業」“判断基準”
（5）厚生労働省「社会福祉法人の在り方について<報告>」
２０１４年７月４日抜粋

『紹介冊子』の編さんに当たって

地域と共に　―愛と奉仕の十字架を掲げて

理事長　冨永　健司

当法人は中津市において1974(昭和49)年「グレース保育園」を、1978(昭和53)年「特別養護老人ホームいずみの園」を設立、以来４０年にわたりキリスト教の愛と奉仕の十字架を掲げ地域の人々のために福祉事業を進めて来ました。1988(昭和63)年に大分県第１号の老人デイサービスセンター事業、1990(平成2)年にはホームヘルプ事業、在宅介護支援センター事業、1992(平成4)年には大分県地域介護実習・普及センター事業、そして1997(平成9)年には老人訪問看護事業と、一貫して地域を意識した在宅サービスを推進してきました。

２１世紀を前に、将来の高齢化社会を危惧して2000(平成12)年、公的介護保険制度が制定されました。介護保険の最大の狙いは高齢者の社会的入院、医療費の高騰を避け、自宅で最後まで暮らしていただける在宅サービスの整備、充実にありました。当法人は引き続き、2002(平成14)年には診療所、通所リハビリセンター、グループホームを新設、医療面からも地域高齢者の支援を目指しました。しかし、一向に減らない施設入所待機者の現実がありました。国の数字によると５２万人の待機者がいるとのことです。

今、私たちの世界では「2015年問題」、「2025年問題」が熱心に議論されています。それは８００万人といわれる団塊の世代の高齢化問題です。団塊世代は2015年に高齢期(65歳)に入り、2025年に後期高齢期(75歳)を迎えます。この対策として国は「地域包括ケアシステム」を強力に打ち出しました。高齢者がその人らしく最後まで暮らしていただける地域づくりのシステムです。介護、予防、医療、住まい、生活支援サービスの整備、充実です。「中津総合ケアセンターいずみの園」ではヘルパーの24時間サービスである「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業」や「小規模多機能型居宅介護事業」に先駆的に取り組み、モデル的事業となっています。

さらに、2013（平成25）年からは障がい児・者サービス部門についても、相談事業、ホームヘルプ事業に加え、就労継続支援事業A型・B型（多機能型）も実施し、『共生社会』の実現に努力していきます。

当法人は、地域と共に歩み、地域の福祉拠点としての役割を今後も目指し続けます。

２０１４年１０月

法人基本理念

信 望 愛

Since1978

青いうずは地域の中の命のいずみを表し、三つの点はいずみから湧きでる信仰（緑）、希望（黄）、愛（赤）をもって地域にお仕えするいずみの園を象徴しています。

品質方針

神と人とに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする。

1．　アメニティ（Amenity）
　快適主義：快適なサービス、快適な環境、笑顔のサービス提供をおこなう。

2．　ヒューマニティ（Humanity）
　人間主義：心と体の自由を尊重、一人ひとりの個性を大切にしたサービスの提供をおこなう。

3．　ローカリティ（Locality）
　地域主義：地域と共に歩み、地域の福祉拠点としての役割を果たす。

上記内容を次の通り実施し、確実にする。

※　顧客満足及び地域社会の福祉向上のためにこの品質方針を要求事項の適合と品質マネジメントシステムの有効性の継続的な改善を図る。

※　品質方針を達成するための品質目標を設定し、定期的に見直しする。

施設長　冨永　健司

２００１年１１月１日

１.ボランテイア活動の拠点として

（１）ジュニアワークキャンプ

特徴　「ジュニアワークキャンプ」は、1995年から開始した、小学３年生から高校生を対象とした１泊２日の「福祉体験」の夏休みキャンプです。
　小学生、中学生、高校生が年齢に関わらず縦横の交わりをする友達づくりの場です。「キャンプ」では、施設見学や高齢者とのふれあい体験、参加者のチームワーク作りをレクリェーションなど通して学びます。「キャンプ」では「昔のものづくり体験」を設けて布わらじ作りや竹籠作りにチャレンジ。指導は、地域で公民館活動をしている方々がボランティアとして協力していただいています。

地域への貢献　高齢社会を支えるには、多くの人々に福祉について関心を持っていただくことが大事です。この「キャンプ」を通して子どもの時から高齢者に親しみ、福祉を学び、高齢社会を支える人材育成の場です。この「キャンプ」は、大分県地域・介護実習普及センターとして、継続して取り組み、この「キャンプ」を通して福祉の道に進んだ方もいます。

実績　これまでの「キャンプ」開催回数：１９回
参加者：２０１２年度＝１９名・ ２０１３年度＝２１名

昔のものづくり体験

レクリェーションの様子

（２）出張介護教室

特徴　「大分県地域・介護実習普及センターいずみの園」は、大分県北地域の福祉の普及活動のために、１９９５年に設立しました。福祉を学び、高齢社会をみんなで支えあう福祉の普及活動を行っています。
　このセンターでは、地域の皆様に来ていただき学ぶ場と、地域に出向き「介護教室等」開催する出張教室があります。介護教室は、地域の要望に応え、ご希望の内容に応えるものです。豊富な講師陣により、介護予防や介護技術、知症予防、福祉の相談にも応じています。
　参加費は無料です。

認知症予防教室

地域への貢献　小さな集まりから高齢者、子ども、各種活動ループ、民生委員や自治委員などのご要望にも応えています。豊富な福祉関係の人材を地域の介護教室に派遣することで、地域の介護に関する知識向上に貢献しています。

実績　2012年度＝１３回開催
　　延べ参加人数３３０名
2013年度＝１１回開催
　　延べ参加人数２７９名

出張介護教室

◇コラム１◇ ―無料介護教室―

無料介護教室　＜講座名＞	内　容
介護予防：筋力向上講座（年9回開催）	体の仕組みを知り、医療職（PT・OT）の指導の下、筋力向上体操
介護教室：清潔のお世話（入浴編・排泄編・食事口腔ケア編）（年6回）	入浴や排せつ、口腔ケアの実際（介護福祉士や歯科衛生士）
脳活性化教室（はつらつ教室）：認知症予防・高齢者を支える制度・人権擁護高齢者虐待について（年6回）	認知症について学び、その後手指の活用で陶芸に挑戦（実費のみ）
脳活性化教室（はつらつ教室）：認知症予防・認知症サポーター養成講座・脳の有酸素運動（年8回）	認知症について学び、その後手指の活用で“さげもん”づくりに挑戦（実費のみ）
料理教室（男性向け　簡単ヘルシースピード料理）：年8回	栄養学に基づき、簡単な食事づくりに挑戦
健康教室（ヘルシークッキング）：（年3回）	季節ごとの料理に挑戦、食育を追及
その他　スポット講座1：救急時の対応　スポット講座2：初めての福祉体験（ふれあい講座） スポット講座3：ジュニアワークキャンプ：（年1回）　スポット講座4：福祉DVD講演会：（年2回）	

料理教室（男性向け）

筋力向上講座

２.施設機能を活かした活動

ーリハビリテーション専門職員の市民を対象としたリハビリ教室（口腔ケア、転倒予防教室）指導・助言

特徴　○「特別養護老人ホームいずみの園」では、入所者の身体機能向上を目的として特養事業部にリハビリ課を設置し、作業療法士（ＯＴ）２名・理学療法士（ＰＴ）１名・言語聴覚士（ＳＴ）１名・歯科衛生士（ＤＨ）１名を専従で配置しています。

理学療法士による歩行訓練

現在、入所者の重度化に伴い、経口摂取の困難な方も増加しています。そこで、上記のセラピストを中心として多職種協働で、胃ろうや経管栄養者の経口摂取移行へ積極的に取り組んでいます。

高齢になると口からの食物の摂取が困難になり、誤嚥などで、肺炎も併発します。ＳＴ・ＤＨは他のスタッフと協同でその対策にかかわっています。

作業療法士による機能訓練

歯科衛生士による口腔ケア

○通所利用者に対しても当園スタッフが出向き、経口摂取困難な方や再び食べたいと望まれる方へ経口摂取が可能になるよう、主治医（「クリニックいずみ」専任医師等）や家族並びに関係機関と連携した支援活動も行っています。

当園専任医師の回診

地域への貢献　公民館等で開催される健康教室等にセラピストを派遣し、転倒予防や口腔ケアの指導実技を行い、地域の『健康年齢』の引き上げの一役をになっています。

実績　2012年度＝介護基本講座17回　県立高校1回　有料老人ホーム11回
2013年度＝　〃　17回　〃　1回　〃　11回

リハビリ教室

◇コラム２◇

ボランティアの方との昼食準備

アウトデイとは　特養入所者が日中、地域に出かけるいわば“逆デイサービス”です。

2001年より、市内の民家をお借りして地元のボランティアを募り、昼食や団欒のひと時を持つ試みを始めました。数年を経て、地域で活動されているボランティアグループより、認知症の方々の支援方法を学びたいとの声があり、ボランティアグループの拠点に場所を替え、当園職員と協働で週1回開催、地域住民の介護知識及び介護力強化の一旦を担っています。

実績　2012年度＝　21回　2013年度＝　24 回　（１回あたり）

開催数	利用者人数	職員数	ボランティア数	合計
週1回	5名程度	２人 （うち送迎者1名）	６～７名	１３～１４名

昼食の風景

３.地域とのかかわり　-1

（１）生き生き健康教室

特徴　中津市上如水地区において市営住宅、県営住宅、近隣の高齢者を対象に健康教室を開催しています。市営・県営住宅には他地区から転居された高齢者も多くいます。新しい土地での生活に馴染み、昔から地域に住む方との交流や当園職員へ気軽に相談していただけるきっかけづくりに役立っています。

地域への貢献　回を重ねる毎に地域の皆さんと職員の関係が、挨拶→会話→相談へと変わり、より迅速な支援へと繋がるようになりました。

　また、住民の皆様に地域での役割（他者への介助）意識が生まれたり、職員は地域の方と時間を共にし、地域がどの様な問題を抱え、どういう支援を必要としているのかを理解することができる貴重な機会となっています。

実績　2013年度＝いきいき健康教室　「遺言相続どうすればいいの？」（行政書士）、「お薬のお話」（薬剤師）、「防災について」（市社会福祉協議会）など

出張介護予防講座の様子

“さげもん”づくりの様子

（２）徘徊模擬訓練

特徴　近年、認知症高齢者の徘徊が増えつつあり、見守る介護者の負担は大きなものです。徘徊から時間が経過するほど、捜索が難しくなり、本人も強い不安や身体的危機にさらされます。

　徘徊者の早期発見には、地域の方と協力し合うことが重要です。この訓練は、そのための仕組みづくりと“地域づくり”につながります。2013年３月に、大分県で初めて高齢者徘徊者模擬訓練を上如水団地と中津市役所の共同で開催しました。

　続いて、2014年３月にも同地区で開催しました。

地域への貢献　この訓練には、小学生から高齢の方までが参加し、小学生が積極的に声をかけて“徘徊者”を探す姿も見られました。また、市役所や警察署と共同で訓練を行うことにより、地域の方々と一つのチームになり、地域の特徴や見逃してしまう通路なども確認できました。

　このように、認知症の問題に地域ぐるみで取り組んでいく必要があるということを、実体験を通して、地域の方々に理解していただく良い機会となっています。

徘徊模擬訓練の風景

実績　2013年３月＝第１回開催時　約９０人参加
2014年３月＝第２回開催時　約１１０人参加
参加者は医師、介護サービス事業所、ケアマネジャー、地域包括支援センター、中津市や大分県の職員、警察、地域住民。

その他　今後、上如水地区以外にも中津市の北部校区での開催を予定しています。

徘徊模擬訓練の打ち合わせの様子

（３）蛎瀬川清掃

清掃活動風景

特徴　当園の「かきぜサポートセンター」のある中津市蛎瀬地区では、毎年5月に地区の方々が集まり、蛎瀬川の清掃活動を行っています。地域交流の一環として当園から職員が毎年参加しています。

　地域の皆さんと、蛎瀬川の清掃活動を通して顔なじみとなり、地域の方から声をかけてくださることも多くなりました。地域との交流を図る良い機会となっています。

地域への貢献　地域の中で事業を行う上で、近隣の方とともに地域の資源を大切にし、当園職員も参加することで、地域の方に職員の姿を知ってもらう機会となっています。川清掃は重労働であり、男性職員などが大きなゴミを地域の方と一緒に集めることによって地域のマンパワーとなっています。

実績　２０１３年度＝職員７名参加　　２０１４年度＝職員８名参加

ゴミの回収風景

3.地域とのかかわり　-2

（4）防犯パトロール

特徴　当園「かきぜサポートセンター」が立地する中津市蛎瀬地区自治会では、毎月１０日前後に生徒の下校時間に合わせて、地区のパトロールを行っています。
　区長を始め、民生委員、子ども会の保護者、当園の職員がパトロール隊員です。
　天候の良い日は、センター内の「かきぜグループホーム」ご利用者も地域住民の一人としてパトロールに参加しています。
　パトロールに参加することで、地域の状況や危険個所の把握ができ、さらには地域の方々との連携を深めることができます。

地域への貢献　区長から、「子どもの下校時間帯にパトロールをしているが、皆仕事をもっており参加者が少ない」と聞き、以来、地域住民の一員としてパトロールに参加をしています。
　職員が参加することで、自分たちも地域住民なのだと意識し、地域への防犯意識も高まりました。昨今の社会状況の中で、このような活動は大事なことと考え、取り組んでいます。

実績　毎月実施＝２～５名参加

パトロール風景

パトロール風景

（5）年末の餅つき

特徴　毎年の年末に、当園「かきぜサポートセンター」では年末の恒例行事として餅つきを行っています。区長をはじめ、近隣の方10名程度にお手伝いして頂き、賑やかな餅つきを行っています。当園の男性職員が中心となり杵で餅をつき、仕上げに児童クラブ「ピーター」の子ども達が順番についたりしています。
　重い杵を小さな体で振り上げー生懸命に餅をついています。できた餅は近隣の方やデイサービスのご利用者、児童クラブの子どもたちで一緒に丸め、おやつ時にみんなで楽しくいただいています。

「ピーター」児童の参加風景

地域への貢献　昔は、家々で行っていた杵での餅つきも核家族化などによってなくなりつつあります。
　しかし、お餅を中心に子ども、障がいのある人、高齢者、近隣住民が一緒に行うことで、それぞれをつなぐことができます。
　ご利用者、子ども達と地域の方々が共に集える場と機会を作り、多世代の交流が図れています。

近隣の方によるお手伝い

実績　２０１２年度＝地域住民・職員３３名参加
　　２０１３年度＝　　〃　　３４名参加

その他　当園「中央サポートセンター」（市内万田）でも、2012年６月の開設以来、年末のお餅つきをデイサービスのご利用者や近隣にお住いの方と共に行っています。杵と臼で作るお餅は好評で、参加されたご利用者や近隣の商店や民家などにお配りして、一年のお礼と皆さんの健康を願っています。
※本部のある「特養いずみの園」及び「聖愛ホーム」の入居者の方にも杵つきのお餅をお配りしています。

（6）作品展示・会場貸与

ホール作品展（出品者）

特徴　当園「ケアマンション聖愛ホーム（ケアハウス）」の一階ホールで、地域の方々の作品展示会を年間通じて開催しています。１ケ月展示して、できるだけ多くの方の目に触れていただき、地域に開かれた施設を目指しています。また、「聖愛ホーム」の入居者の方には、様々な作品を身近に触れ鑑賞することで、生活の中での潤いや会話、生きがいなどの場となっています。

地域への貢献　市内の公民館教室や個人的な趣味活動で創作した作品の発表の場として、「聖愛ホーム」ホールを無料で使っていただいています。
　多くの方が来園され、地域に薫り高い文化を発信しています。

実績　2013年度＝ホール作品展～油絵個展・手作り作品・押し花作品・挿絵刺繍・昭和の写真展や風景写真展・折り紙展など

ホール作品展（ご利用者見学）

４. 各種行事の地域（合同）開催事業

（１）「いずみの園フェスタ」

入場ゲート

特徴　『「いずみの園」創立２０周年記念感謝祭』として、１９９８年１１月に第１回目を開始しました。以来、２０１３年で１５回を迎え、日ごろお世話になっている地域の方へ、感謝の心を込めて行う行事です。

当初は当園職員を中心に実施してきましたが、回を重ねるにつれて、地域のボランティア団体やライオンズクラブ、商工会議所青年部、さらには地元企業も出店に参加するようになり、中津の秋祭りのひとつとして市民の方に定着するようになりました。人気のバザーコーナー、屋台コーナー、健康・介護保険相談、お茶会の他、ステージコーナーでは地域で活躍する団体の出し物もあります。

ステージ（司会者）

会場の様子

地域貢献　こうした大規模なお祭りは、世代を超えて広く市民が一つの場所にあつまり、バラバラになりつつある家族や地域住民の一体化につながります。

また、ボランテイアとして参加していただく方にとっても、“人のために役立つ”ことは貴重な経験になると考えられます。

実績　２０１２年１０月＝総勢約２０００人　ボランティア１６４名　ステージ出演６団体
２０１３年１０月＝　〃　２０００人　　〃　　１６０名　　〃　　７団体

茶会の様子（小笠原古流茶会）

（２）「楽一通り楽市楽座秋祭り」（蛎瀬地区）

職員による餅つき

風船無料配布

特徴　「いずみの園かきぜサポートセンター」の近くの蛎瀬地区、豊後町を通る通称「楽一通り」で、『楽一通り楽市楽座秋祭り』が開催されており、当園も今まで１０回の参加をしています。

地域の方にお手伝いを頂き、餅つきを行い、販売と子どもへの風船の無料配布を行っています。地域の方と、当園のご利用者の方も、お祭りを通して交流が図られ、“まちづくり”の一翼に加わっています。

地域との連携　地域の方が主催する秋祭りに、その一員として「かきぜサポートセンター」職員が加わることにより、地域で一体感を醸成させ、福祉の事業所としての地域化が図られます。

実績　２０１２年１０月＝地域の方１０名　職員３４名　参加
２０１３年１０月＝　〃　１１名　〃　３４名　参加

ご利用者の参加風景

5.アウトリーチ機能（主に総合相談機能）

（1）ひとり暮らし・高齢世帯・低所得などの高齢者へのアウトリーチ機能

特徴　「中津市地域包括支援センターいずみの園」は、担当小学校区を中心に月平均６０件程度の総合相談に対応しています。多くは、相談の電話をお受けした後、ご自宅を訪問し、ご本人、ご家族と話し合いながら、必要と思われるサービスの説明や関係団体のご紹介、制度利用申請のお手伝いなどの支援を行っています。

また、ご本人、ご家族以外にも、医療機関、自治委員や民生委員、住民型有償サービス団体など地域で活動される方から相談をお受けし、連携をとって地域住民の支援を行っています。

地域への貢献　当「地域包括支援センター」の担当区域は如水・大幡・今津校区です。この３校区では毎年介護予防教室をコミュニティセンターや集会所で開催しています。その他福祉医療に関する講師依頼をお受けしています。

最近では介護予防体操や、認知症に対する関心が高まっており、各担当校区の「地域福祉ネットワーク協議会」へも参加し、事務局の手伝いもしています。

介護予防教室の講話の様子

実績　2012年度＝総合相談対応実績
延べ6,447件
介護予防教室
全7回開催
132名参加
2013年度＝　同上　延べ5,425件
同上　全11回開催
141名参加

介護予防教室の実技の風景

（2）障がいのある人等要援護者へのアウトリーチ機能

特徴　制度上、社会保障のセーフティネットが整備されていますが、障がい（身体、知的、精神、難病など）によって就労が困難なことや住宅の確保が難しいなど、生活苦に陥る人が少なくありません。こうした相談支援事業を行う「障害者生活支援センターエマオ」は中津市から委託を受け、社会的・経済的・心理的悩みや生活に関することなど、障がいをもつ人の相談・助言・他機関の紹介を行っています。

また、「エマオ」の専門員がその人のご自宅などへ訪問し、福祉の立場からのアウトリーチ活動も行っています。

地域への貢献　「エマオ」は、自立支援協議会の事務局を他の事業所と一緒に担っています。“障がいのある人もない人も、どうすれば地域で暮らし続けられるか”ということを、日々の支援の中で抱えている課題を協議会においてネットワークを作りながら、住みやすい地域づくりを目指しています。

「エマオ」事業所内

実績　2012年度＝相談実人数　297名
総件数9,346件
2013年度＝　同上　264名
総件数5,723件

相談支援の様子

その他　「エマオ」では、障がい福祉サービスを利用する方ための計画（サービス等利用計画＝いわゆる障がい児者のケアマネジメント）書の作成を行っています。

◇コラム３◇

オレンジカフェなかつの様子

オレンジカフェつきのきの様子

オレンジカフェ　中津市では、市の事業として、認知症の人とその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会づくりに取り組んでいます。「地域包括支援センターいずみの園」も事業を受託し、種々お手伝いをしています。「オレンジカフェ」は、認知症の人やその家族等が気軽に集まってお茶を飲みながら、認知症についての相談が、専門スタッフによってできるものです。
（参加料100円：飲み物・お菓子代）

オレンジカフェやまうつりの様子

6. 高齢者・障がい児者・子ども・母親・地域住民の共生事業

『福祉の里センター　サマリア館』（2015年4月開所予定）

特徴　地域において、①お年寄りからは、「暇はあるけど、一緒に話したり、作ったりしたい」　②障がいのある人からは、「自然に手助けしてくれる人がいて、あったかい雰囲気のところへ出かけてみたい。」　③子育て中の母親からは、「子どもが安心して遊べる場所、おじいちゃん、おばあちゃんがみんなを見てくれ、他の母親とも交流したい」などの声があります。そのために、共生社会の実現に向け、地域の三世代の交流の場づくりの事業を「いずみの園」では市内北部校区の「かきぜサポートセンター」において行うものです。新築の建物において『福祉の里センター』として2015年4月に開所します。

地域の人との多様なかかわりの中でご近所づきあい、中津の下町づくり、広場がつくるまちのにぎわいを目指します。

事業内容

高齢者関係：通所介護事業（既存）　訪問看護事業（移設）　介護予防・日常生活支援総合事業　［新設］
障がい関係：基準該当生活介護（既存）　児童発達支援事業　福祉型［新設］　放課後等デイサービス事業［新設］
日中一時支援事業（既存）
子育て関係：地域子育て支援拠点事業［新設］
児童発達支援事業所を同建物で行うことで発達障がい等への早いアプローチをすることができる。
地域住民　：カフェ　運動・マッサージコーナー　文化伝承スペース　会議室　学習室　視聴覚コーナー
フリースペース　　地域住民も自由に利用でき、カフェやフリースペース、会議室で各サービス利用者、地域住民が利用し交流する場とする。
同敷地内　：小規模多機能型居宅介護事業、認知症対応型共同生活介護事業、放課後児童クラブ事業を継続実施。

地域への貢献　地域の人びとが集まる場所は、規模によらずスーパーマーケット・商店街や公民館などに限られ、幅広い世代が自由に、かつ、安心して集まる場所は存外少ない。

この『福祉の里センター』は、こうしたニーズにこたえ地域の社会資源として、①多世代間の交流　②共生社会の実現　③次世代への文化の伝承　などの効果が期待され、有益な社会資源として「社会の豊かさ」につながると願っています。

「福祉の里センター　サマリア館」完成予想図

現在の「デイサービスかきぜ」

児童クラブ「ピーター」

児童クラブの児童と高齢者の交流風景

「かきぜサポートセンター」前景

7.行政・教育機関・福祉施設等との協力・連携

（1）社会福祉法人減免の実施

社福減免の説明　低所得で特に生計が困難である方に、介護保険サービスの提供を行う社会福祉法人が、社会的役割にかんがみ利用者負担を軽減することにより、サービスの利用促進を図ることを目的とする制度です。当施設は、2005年１０月より実施（園全体の実績は下表）

地域への効果　行政や社会福祉法人が経済的負担を軽減することによって、対象となる低所得者層が、経済的困難にかかわらず公的制度が受けることが出来るようになります。

２０１３年度実績　（円）

事業所	利用者負担総額	軽減総額	助成額	法人負担額
特養	54,796,967	106,572	0	106,572
ショートステイ	12,306,401	2,393	0	2,393
ホームヘルパー	6,066,019	8,144	0	8,144
コールセンター	1,212,836	990	0	990
コール24H	4,787,309	58,324	5,226	53,098
ふれんど館	8,103,507	39,803	0	39,803
デイかきぜ	4,787,093	19,866	0	19,866
寄り合いセンター	4,373,482	420,584	188,425	232,159
合計	96,433,614	656,676	193,651	463,025

（2）県立中津支援学校生実習生の受け入れ

「シャローム」での実習の様子

特徴　２０１０年４月に中津市に移転（高等部も2011年４月）した大分県立中津支援学校の高等部の2、3年生が、卒業後の進路に向けた実習先として、6月と10月、「特養いずみの園」と「かきぜサポートセンター」（2013年度から「障がい者ワークセンターシャローム」）に介護や就労継続支援事業として、体験実習希望者を受け入れています。

地域への効果　県立中津支援学校では、生徒が職場体験を経て自分の社会的・職業的自立のための実習に力点をおいており、実習先である当園も、生徒さんの社会への第1歩としての選択肢として、支援学校と連絡を密にし、本人の希望や特性・ご家族のご意見に即した進路決定の参考となるように協力しています。

実績　2012年度＝いずみの園　４人、
かきぜサポートセンター　1人
2013年度＝シャローム　５人、
かきぜサポートセンター　1人

「かきぜサポートセンター」での実習

（3）児童養護施設入所者のアルバイト受け入れ

特徴　「かきぜサポートセンター」の児童クラブ「ピーター」・日中一時支援事業所「マルコ」を対象に、市内の児童養護施設に入所している高校生を、長期休暇時にアルバイトとして職場を提供しています。

「ピーター」の小学校1年生から3年生の子どもとかかわりだけでなく、「マルコ」を利用している障がい児とのかかわりの中で共に支えあうことも学んでいます。アルバイトで得た賃金で携帯電話の代金や、今後社会に巣立つ際の準備資金としています。

アルバイトの様子１

アルバイトの様子２

地域（高校生）への効果　地域で、困難な状況にある高校生への側面的経済援助を通して、社会とふれあい、福祉についても客観的に評価できる機会が与えられ、その高校生の自立に役立つものと考えています。

実績　2012年度＝延べ　9人
2013年度＝延べ　6人

（4）職場体験（インターンシップ）の受け入れ

特徴　「中津総合ケアセンターいずみの園」では、大分県社協、中津市社協による高校・大学生の職場体験のほか、中学校の依頼による中学生の職場体験、高校生のインターンシップを積極的に受け入れています。

職場体験の目的は、職場体験を通して社会貢献を学び、また、次世代を担う人材育成にも目を向けたボランティア活動です。

当園の福祉、医療に興味を持つ生徒・学生が一定期間研修として来られます。

職場体験の様子１

職場体験の様子２

地域への貢献　少子高齢社会の中で、今後の福祉人材の確保は今日的な課題です。福祉現場の理解促進、楽しさ、やりがい感を体験してもらい、一人でも多くの福祉人材の輩出を行っていきたいと思います。

実績　２０１２年度＝１０８人
２０１３年度＝１７３人

８.地域防災への取組

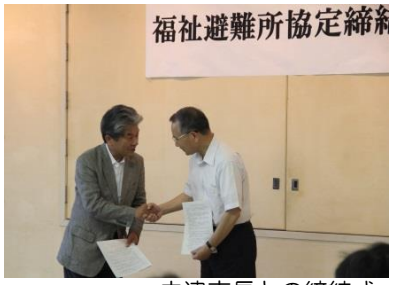
（１）中津市福祉避難所契約・防災士の養成

特徴　○「中津総合ケアセンターいずみの園」では、20年前（1995年）より防災委員会を組織しており、防火・防災の機能強化を図るため、地域の消防署より指導を受けながら、災害時の計画を見直すと共に備蓄、備品を整えています。

　また、地震や当時は予測していなかった津波についての計画を作り、地域の方と協力して災害への備えを進めています。

○2013年7月には、中津市と市内福祉事業所間で「福祉避難所協定」を締結しました。災害時には、福祉施設を活用し、介護の必要な高齢者や、障がいのある人など一般の避難所では支障のある“災害弱者”の受け入れを行います。また、当園職員では、６名が防災士の資格認定を受けています。この他にも「福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード」へも参加しています。

地域への貢献　災害時には指定避難所への避難が基本となりますが、2013年7月、中津市との「福祉避難所協定」を締結し、特別な配慮を必要とする方（災害時要援護者：高齢者、障がいのある人、妊産婦、乳幼児、病弱者等）を受け入れます。



中津市長との締結式

春の総合防災訓練

（２）蛎瀬地区の総合防災訓練

特徴　毎年、当園「かきぜサポートセンター」では防災訓練に蛎瀬地域の区長や近隣住民、児童クラブ「ピーター」の子ども達、当園職員が参加しています。（２０１４年度には蛎瀬地区の総合防災訓練を１１月に行う予定としています。）

地域への貢献　地域の方は昼間、仕事に行き、家を留守にしており、夜は自宅におられます。反対に、事業所の職員の昼間は多く出勤しており、夜は夜勤者のみとなります。お互いに協力ができれば、「かきぜサポートセンター」の利用者のみならず、地域の要援護者を早く避難することができる方策について、住民の方と話し合い、不測の事態に備えます。
※蛎瀬地区総合防災訓練は2014年11月に実施予定。

避難訓練の様子

「ピーター」児童の参加

◇コラム４◇

防災士とは

　社会の様々な場で、減災と社会の防災力向上のための活動が期待されています。そのために十分な知識・技能等を有する者として認められた人で、「NPO法人日本防災士機構」が認定する資格です。

　防災士は、家庭・職場・地域の中で大きく分けて3つあります。　①災害時の被害の拡大の軽減　②被災者支援の活動　③防災意識の啓発など　が役割となっています。

防災士認定証

◇コラム５◇

災害福祉広域支援ネットワーク“サンダーバード”とは

　行政、医療、福祉、建築、消防関係者などにより構成されているネットワーク、（代表　小山　剛　氏　新潟県高齢者総合ケアセンターこぶし園）で、組織の発足は「全国どこで災害が起きても、社会福祉施設でもレベルの高い対応ができるしくみをつくろう！」という声から、２００５年「災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード」が生まれました。当園も2012年より会員となっています。

9. CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会貢献）の実績

（1）東日本大震災への支援

①物資支援

内容　2011年3月11日の東北地方を襲った東日本大震災発生後、「いずみの園」ではいち早く支援のため行動し、警察署などと協力し、市内の有志からのトラック提供（運転手２人、４ｔ車）を受け、3月19日、施設内に備蓄していた防災食などを、被災地・仙台市へ急輸し、援助を行いました。（大分合同新聞でも紹介）

実績　施設内に備蓄していた250人・3日分の防災食や水をはじめ防災用品、紙オムツに加え、当日購入したお米や生活用品など総額約200万円分の物資を発送。

「一刻も早く物資を」
中津の福祉施設が被災地入り決断
車中泊を覚悟、トラックで

大分合同新聞の記事
（2011年3月20日付）

感謝状

社会福祉法人
九州キリスト教
社会福祉事業団　殿

貴法人は東日本大震災による被災地福島県広野町の社会福祉法人養高会特別養護老人ホーム「花ぶさ苑」へ介護職員の派遣を行いましたその功労に対し敬意を払い感謝の意を表します

平成二十六年五月二十二日
大分県社会福祉法人経営者協議会
会長　御手洗吉生

大分県社会福祉施設経営者協議会からの、介護職員派遣の感謝状

②人的支援

内容　福島県広野町にある特別養護老人ホーム「花ぶさ苑」における、介護士不足を応援するため、大分県社会福祉施設経営者協議会の提唱により、大分県内の６法人１２名の介護福祉士が１ヶ月間応援派遣され、「いずみの園」からも２名の職員が派遣に応じ現地へ入りました。

実績　2014年5月5日～1ヶ月間、6月1日～1ヶ月間各1名派遣
（大分県経営協提唱）
2014年9月15日2週間＝福島県南相馬市「特養長寿荘」へ2名派遣
（九社連提唱）

支援物資積み込みの様子

（2）北部九州災害への人的派遣

内容　2012年7月3日と、7月11日から14日（「九州北部豪雨」）にかけての2度にわたる豪雨による山国川の氾濫で、中津市でも甚大な被害がありました。「いずみの園」では、「大分県社会福祉施設等災害時相互応援協定」に基づく要請を受け、床上浸水した中津市耶馬溪町の特養「やすらぎ荘」へ、また被害をうけた一般家庭の片付けにも当園職員を応援派遣し、復旧支援を行いました。

実績　2012年７月＝特別養護老人ホーム「やすらぎ荘」へ5日間延べ15名の職員派遣、一般家庭へ9日間延べ26名の職員派遣

支援作業の様子１

支援作業の様子２

（3）「アフリカへ毛布を送る運動」への協力

特徴　「アフリカへ毛布をおくる運動」（「アフリカへ毛布をおくる運動推進委員会」主催）は、貧困や紛争などに苦しむアフリカの人々を支援しています。「いずみの園」も同運動への協力をしています。

アフリカ各国では、自然災害や紛争により、多くの人々が厳しい生活を送っていますが、困窮する人々にとって、配付された毛布は寝具や産着などに活用され、過酷な自然環境や生活の中で命を守るために不可欠なものとなっています。

当法人では、2002年度より活動へ参加しています。

実績

	2002年初年度		2012年度	2013年度	2014年度
毛　布	364枚	略	51枚	53枚	主唱団体の活動休止のため不参加
送料寄付	5万円		17.8万円	17.6万円	

毛布・輸送協力金の寄贈式

「アフリカへ毛布を送る運動」看板

１０.各種経済団体・地域団体との連携

福祉の応援団

（１）中津商工会議所との連携

特徴　「中津総合ケアセンターいずみの園」では長年、在宅サービスの充実を図り、地域福祉の展開を進めてきましたが、行政をはじめ地域との連携は不可欠です。

　特に、2013年度から障がい者の就労継続支援事業を進めるにつけ、経済界、経営者、商店街との協力関係が必要となります。

認知症サポーター養成講座

実績　2013年11月中津商工会議所常議員に就任、歓迎を受け福祉の委員会も設置され高齢者、障がい者、認知症問題など理解、普及は進んできました。

軍師官兵衛「豊前国中津編」
放送記念パブリックビューイング

（２）中津商工会議所提唱“地域清掃活動”への参加

特徴　毎月、第3週水曜日に行われる中津商工会議所提唱の『まずは会社付近の清掃をしよう』の活動に参加しています。市内にある事業所単位で時間を決めて、周囲の道路の清掃などを行っています。

地域清掃活動の様子
（ワークセンターシャローム）

実績　２０１４年＝参加職員

地域清掃活動の様子
（中央サポートセンター）

1月15名
2月　7名
3月　8名
4月14名
5月12名
6月　9名
7月　8名
8月　7名

（３）中津青年会議所（ＪＣ）主催「中津だよ！全員集合」への参加

特徴　東九州自動車道宇佐～椎田南間の２０１７年春の開通を控え、「中津から人やモノが流出せず、通過点にならぬよう、産業や文化などを再認識しよう」と中津青年会議所が2012年から行っている催事で、地元企業を紹介する企画に賛同し、ブースへの出展を行いました。ビデオやパネルで「いずみの園」の紹介を行いました。

2012年の参加風景

2013年の参加風景

実績

2012年＝ 10月27・28日
　2日間合わせて約1400人の方がブースへ来場

2013年＝ 5月12日
　約700人の方がブースへ来場、園事業パネル紹介、血圧測定、リハビリ機器体験など

（４）「大分県中小企業家同友会中津支部」の参加

例会の様子

特徴　現在、大分県中小企業家同友会中津支部に加入しています。当園参加の委員は“障がい者問題委員会”に所属しており、障がい者の就労に関することや障がい者の実習受け入れ賛同企業を募っています。

　その他、中津市における障がい者問題について支援学校の先生やハローワークの方々等と意見交換を行っています。

報告風景

実績　社会福祉法人として、このような活動を通し、障がいのある方の雇用や社会・経済活動にも貢献出来るよう活動しています。

（５）「中津・桜ともみじの会」植樹への参加

植樹の様子1

特徴　「中津・桜ともみじの会」実行委員会は、中津全域を“日本有数の桜ともみじの里づくり”を目指し、市民総参加による桜ともみじの植樹を提唱しています。自然環境整備と緑化へ、官民の相互協働によるまちづくりを具体的に実施することを目的としており、2006年度より市内各所に植樹を行っています。この活動に「いずみの園」も参加しています。

植樹の様子2

実績　2014年１月、中津市本耶馬渓町（羅漢洞門トンネル付近）で行われた植樹で、当園職員・家族１９名参加。

◇　資　料　編　◇

（１）いずみの園の沿革

保育事業から高齢者部門へ

1978年	S53年	4月	「特別養護老人ホームいずみの園」(定員50名)新築開設
1981年	S56年	8月	「特別養護老人ホームいずみの園」老人短期入所事業（定員10名）開始
1988年	S63年	1月	「いずみの園デイサービスセンター」新築、大分県第一号施設として事業開始
1990年	H2年	9月	「いずみの園」ホームヘルプ事業開始
1990年	H2年	12月	「いずみの園在宅介護支援センター」事業開始
1992年	H4年	4月	「特別養護老人ホームいずみの園」定員を100名に変更、内認知症老人専用棟20名として事業開始
1992年	H4年	7月	「大分県地域介護実習・普及センターいずみの園」事業開始
1995年	H7年	9月	ケアハウス「ケアマンション聖愛ホーム」(定員50名)新築開設
1997年	H9年	10月	「いずみの園」老人訪問看護事業開始

介護保険制度にあわせ多機能化

2000年	H12年	4月	介護保険法の施行、指定介護保険事業者として介護保険事業開始
2002年	H14年	7月	認知症老人グループホーム「ベテルハウス」新築開設
2002年	H14年	8月	診療所「クリニックいずみ」、通所リハ「リハビリセンターいずみ」新築開設
2002年	H14年	10月	「障害者生活支援センターエマオ」(中津市委託)事業開始
2003年	H15年	6月	旧グレース保育園跡地にて「デイサービスセンターかきぜ」事業開始
2005年	H17年	4月	「いずみの園ショートステイ」7室増床（2007年８月10床増床　計２７床）
2006年	H18年	2月	有料老人ホーム「シニアレジデンスいずみの森」（定員14名）新築開設
2007年	H19年	3月	特養の一部（36床）を増改築しユニット型として開始
2007年	H19年	4月	かきぜサポートセンターにて「いずみの園児童クラブピーター」（中津市委託）事業開始

要支援者（高齢者・障がい者・児童）へ包括サービス提供

2008年	H20年	4月	かきぜサポートセンター内に「いずみの園児童クラブピーター」施設新設
2010年	H22年	4月	夜間対応型訪問介護事業「いずみの園コールセンター」開始
2010年	H22年	7月	小規模多機能型居宅介護「寄り合いセンターいずみ」（定員25名）、認知症対応型共同生活介護「かきぜグループホーム」（定員18名）新築開設
2011年	H23年	4月	「日中一時支援事業マルコ」（中津市委託）開始
2012年	H24年	4月	通所介護「デイサービスセンター北堀川」（定員15名）事業開始
2012年	H24年	4月	事業所内保育施設「マリアガーデン」（定員20名）新築開設
2012年	H24年	5月	定期巡回・随時対応型訪問介護看護「いずみの園コールセンター　２４時間サービス」事業開始
2012年	H24年	6月	通所介護「いずみの園中央サポートセンター」（定員25名）事業開始

「中津総合ケアセンターいずみの園」へ名称変更

2013年	H25年	4月	「多機能型事業所ワークセンターシャローム」（障がい者就労継続支援定員A型10名,B型10名）事業開始
2013年	H25年	10月	ユニットリーダー研修実地研修施設に認定（全国個室ユニット型施設推進協議会）
2014年	H26年	4月	「特別養護老人ホームいずみの園」（多床室）を定員60名へ変更・「特別養護老人ホームいずみの園ヨハネ館」（ユニット個室）定員40名として新設

（２）いずみの園事業一覧

①高齢者向け事業

ｉ）介護保険事業

	サービス種別	サービス名	いずみの園での事業所
介護サービス（介護予防を含む）	居宅サービス	訪問介護	いずみの園ホームヘルパーステーション
		訪問看護	いずみの園訪問看護ステーション
		通所介護	いずみの園デイサービスセンター（ふれんど館・ふれあい館・かきぜ・　北堀川）
			中央サポートセンター
		通所リハビリテーション	いずみの園リハビリセンター
		短期入所生活介護	いずみの園ショートステイサービス
	居宅介護支援	居宅介護支援	いずみの園介護保険サービスセンター
	施設サービス	介護老人福祉施設	特別養護老人ホームいずみの園
	地域密着型サービス	夜間対応型訪問介護	いずみの園コールセンター
		定期巡回・随時対応型訪問介護看護	いずみの園コールセンター24時間サービス
		小規模多機能型居宅介護	寄り合いセンターいずみ
		認知症対応型共同生活介護	いずみの園グループホーム(ベテルハウス)
			かきぜグループホーム（けやき・いちょう）
	介護予防支援	介護予防支援	中津市地域包括支援センターいずみの園

ⅱ）介護保険以外の事業

サービス名	いずみの園での事業所
ケアハウス	ケアマンション聖愛ホーム
住宅型有料老人ホーム	シニアレジデンスいずみの森
生きがい活動支援通所事業	生きがいデイサービス北堀川

②障がい児・者事業

サービス名	いずみの園での事業所
障がい福祉サービス居宅介護	いずみの園ホームヘルパーステーション
障がい福祉サービス重度訪問介護	
障がい福祉サービス行動援護	
障がい福祉サービス生活介護	いずみの園デイサービスセンターかきぜ
障がい福祉サービス相談支援	障害者生活支援センターエマオ
日中一時支援事業	日中一時支援事業所マルコ
障がい者就労継続支援	多機能型（A・B型）事業所ワークセンターシャローム

③子ども・子育て事業

サービス名	いずみの園での事業所
放課後児童クラブ	いずみの園児童クラブピーター
事業所内保育施設	マリアガーデン

【参考】当法人内には次の3つの保育所も経営しています。

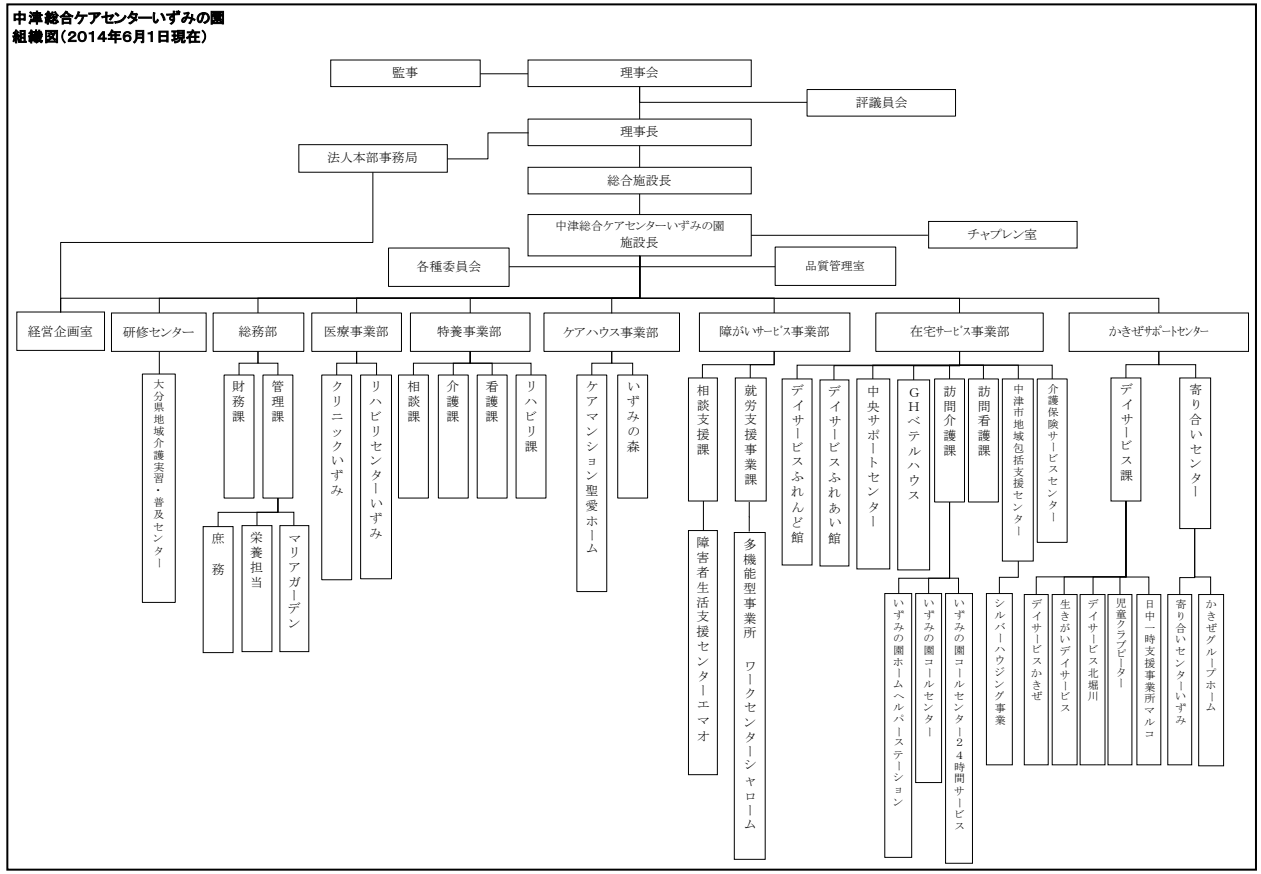
ｉ）めぐみ保育園　大分県大分市花高松3丁目2-12　定員：１２０名
ⅱ）グレース保育園　大分県中津市大字大塚199　定員：１２０名
ⅲ）犀川のぞみ保育園　福岡県京都郡みやこ町犀川本庄７４５　定員：　４０名

④その他の事業

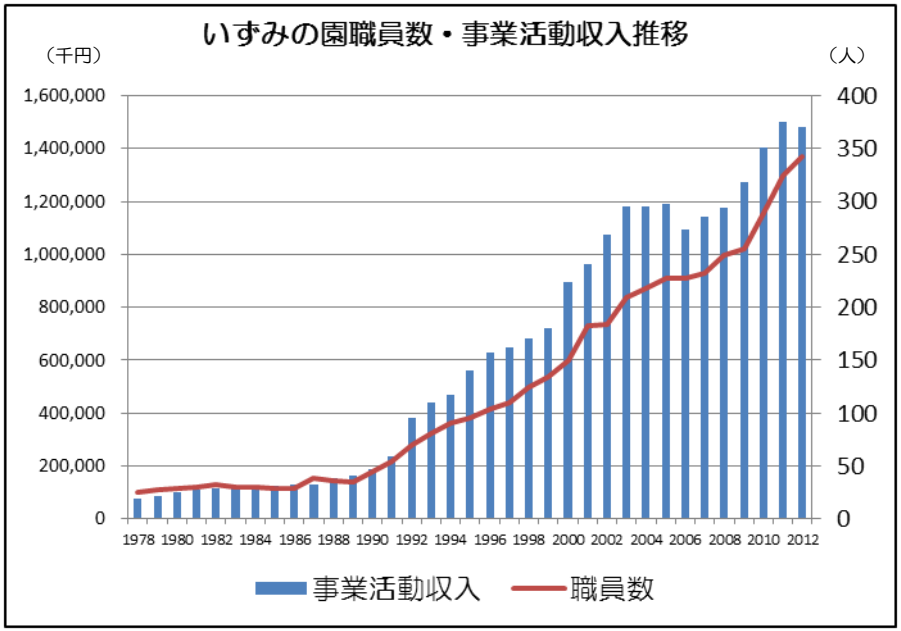
サービス名	いずみの園での事業所
医療機関	クリニックいずみ
地域介護実習・普及センター	大分県地域介護実習・普及センターいずみの園

（３）いずみの園組織図・職員数

①組織図



②職員数・事情活動収入



職員数現員（2014年10月１日現在）

いずみの園	３５０人
めぐみ保育園	２８人
グレース保育園	２７人
犀川のぞみ保育園	１４人

（４）本冊子作成に当たっての『地域貢献事業』 = 判断基準 =

1.非営利法人として制度や市場原理では満たされないニーズに取り組んでいく公益的な事業を、『地域貢献事業』とした。
　したがって、主に国による制度（県・市による制度は、その趣旨・期間により判断）として人員配置や費用単価が定められている事業は、本来事業として整理し、原則的には『地域貢献事業』に含めなかった。

2.ただし、アウトリーチ機能（主に総合相談機能）を有する事業については、社会的要請に基づくもので、施設機能とは異なる地域の繋がりや、低所得者への支援といった観点から『地域貢献事業』に含めた。
　また、事業に要する費用の判断基準として、公費が事業費全体の５０％以上の場合であっても、その事業は法人としての独自性が高く、かつ、“地域貢献”に益する内容であれば、『地域貢献事業』に含めた。

（５）厚生労働省「社会福祉法人制度の在り方について〈報告〉」2014 年7月4日（抜粋）

社会福祉法人の在り方等に関する検討会

第５部　社会福祉法人制度見直しにおける論点

1．地域における公益的な活動の推進

（２）当検討会の意見

ア　地域における公益的な活動の枠組み

（地域における公益的な活動の実施義務）

○　社会福祉事業を主たる事業とする非営利法人の役割として、地域における公益的な活動は全ての社会福祉法人において実施される必要がある。全ての社会福祉法人に実施を求めるためには、法律上、実施義務を明記することを検討すべきである。

（地域における公益的な活動の定義）

○ 地域における公益的な活動について、どのようなものがその活動に当たるのかということについては、地域性を考慮することや、多様な支援が可能となるよう、規定の在り方について更に検討を深めるべきである。

○また、地域における公益的な活動は、地域の多様なニーズに柔軟に対応するために、社会福祉法人の自主性が尊重される仕組みとすべきである。特に、現行の社会福祉法人の公益事業のように国が事業を例示すると、所轄庁の画一的な指導を招き、活動内容が例示事例中心になってしまうなど、かえって真に地域ニーズに沿った事業展開ができなくなるおそれがあることに留意する必要がある。

○ このため、地域における公益的な活動の内容については、①地域住民の代表、福祉･医療等の専門職、地方公共団体の職員などから成る協議会による評価を活用する仕組みや、②市町村の策定する「地域福祉計画」等地域で必要とする支援や福祉サービスの基盤整備の方針等の活用など、具体的に各地域で定められる仕組みとすることが考えられる。また、各地で行われている地域における公益的な活動について、十分な情報提供を行うことも有効な方策である。

（社会福祉法における活動の位置づけ）

（略）

（地域における公益的な活動の実施に当たっての留意点）

○ 社会福祉法人が、社会福祉事業を実施する中で、積極的に障害者の雇用をしたり、新たな取組を開発したりという形で地域のニーズに応えていけば、社会福祉事業から地域における公益的な活動へと自然に展開していくことが可能と考えられる。

○ 地域における公益的な活動については、既に実施している社会福祉事業を疎かにして実施されることがないよう、義務付ける内容を慎重に検討した上で、積極的な実施ができるよう環境を整えるべきである。

イ地域における公益的な活動の実施方法

（複数法人による活動の協働化等）

○ 地域における公益的な活動は、制度に則った事業とは異なり、財源問題を含め、様々なリスクや困難を伴うことも想定される。このため、
① 法人単独で行う方法だけでなく、複数の法人が活動資金を出し合ったり、一体的な組織を構成したりすること等により事業を展開すること
② 社会福祉法人だけでなく、地域住民を対象にして活動するボランティア、NPO 等の公益法人を支援しながら、連携して地域における公益的な活動に取り組んでいくことを積極的に推進するべきである。

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団

法人本部
中津総合ケアセンターいずみの園

〒871-0162　大分県中津市大字永添２７４４番地
電話　：０９７９―２３－１６１６（代）
FAX　：０９７９―２３－１７８３
ホームページ：http://www.izuminosono.jp/

いずみの園コールセンター24時間サービス
TEL:0979-85-0356

いずみの園介護保険サービスセンター
TEL:0979-23-0990

地域包括支援センターいずみの園
TEL:0979-62-9000

クリニックいずみ
TEL:0979-26-0788

ケアマンション聖愛ホーム
TEL:0979-23-2255

かきぜサポートセンター（中津市蛎瀬）
TEL:0979-26-0039

中央サポートセンター　（中津市万田）
TEL:0979-64-9058

障害者生活支援センターエマオ（中津市沖代町）
TEL:0979-26-1231

ワークセンターシャローム（中津市永添）
TEL:0979-64-9059

シニアレジデンスいずみの森（中津市永添）
TEL:0979-33-7070

（2014.10発行）